CDラジオカセットレコーダー保証書 持込修理

保証期間内に取扱説明書、本体ラベル等の注意書きにしたがって正常な使用状態で使用していて故障した場合には、本書記載内容にもとづきお買い上げの販売店が無料修理いたします。
お買い上げの日から下記の期間内に故障した場合は、商品と本書をお持ちいただき、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。なお、商品をお買い上げの販売店（修理申出先）やメーカーへ送付した場合の送料等はお客様の負担となります。
お客様にご記入いただいた保証書の写しは、保障期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させて頂く場合がございますので、ご了承ください。

型式	CK-55	※お買い上げ日	保証期間
		平成　年　月　日	本体：1 年
※お客様	ご住所 ご芳名	〒　-	様
※販売店	住所 店名	〒　-	TEL

※印欄に記入のない場合は無効となりますから必ずご確認ください。

1.保証期間内でも次のような場合には有料修理となります。
（イ）使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
（ロ）お買い上げ後の落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
（ハ）火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変、塩害、公害、ガス害（硫化ガスなど）や異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）による故障及び損傷。
（ニ）一般家庭用以外《例えば業務用等への長時間使用及び車両（車載用を除く）、船舶への搭載》に使用された場合の故障及び損傷。
（ホ）業務用に使用されて生じた故障または損傷。
（ヘ）本書のご提示がない場合。
（ト）本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合。あるいは字句を書き換えられた場合。
2.この商品について出張修理をご希望の場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3.ご転居の場合は事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
4.贈答品等で本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼になれない場合には、ご相談窓口（☞ 26ページ）にご相談ください。
5.本書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保存してください。
6.本書は日本国内においてのみ有効です。Effective only in Japan.

- この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはご相談窓口（☞ 26ページ）にお問合わせください。
- 保証期間経過後の修理や補修用性能部品の保有期間については取扱説明書の「保証とアフターサービス」（☞ 27ページ）をご覧ください。
- このCDラジオカセットレコーダーの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後6年です。補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

日立コンシューマ・マーケティング株式会社 リビングサプライ社
〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-29（アクロポリス東京）
TEL. 03（3260）9611
FAX.03（3260）9739

KM0909-B

取扱説明書　日立コンシューマ・マーケティング

保証書付　保証書はこの取扱説明書の裏表紙についていますので、お買い上げの販売店の記入をお受けください。

家庭用

CDラジオカセットレコーダー

型式 CK-55（シーケー55）

このたびは、CDラジオカセットレコーダー「CK-55」をお求めいただき、まことにありがとうございました。
この「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくご使用ください。
なお、お読みになった後は、大切に保存してください。

目　次

- このCDラジオカセットレコーダーは一般家庭用です。他の用途でのご使用はしないでください。思わぬ事故の原因となります。
- この製品は日本国内家庭用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。またアフターサービスもできません。
This appliance is designed for use only in Japan and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.
- 地震・火災など緊急時や異常時には、直ちに電源プラグを抜き、ご使用を中止してください。

安全上のご注意

■絵表示について

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示の例

禁止	指示を守る	分解禁止

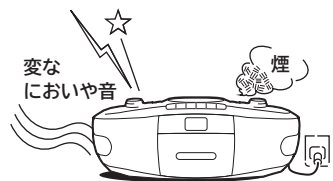
電源プラグを コンセントから抜く	ぬれ手禁止	水ぬれ禁止	手をはさまれないよう注意

「安全上のご注意」のイラストと本機とでは形状等が異なることがありますがご了承ください。

⚠警告

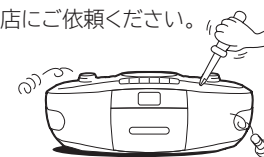
万一、異常や故障が発生したときはすぐに使用をやめてください

次のようなときは、そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに本体のファンクションスイッチで電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

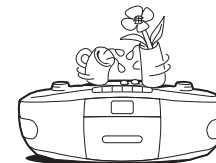
- 煙が出ている、変なにおいや音がする(異常状態)
  煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対おやめください。
- 本機の内部に水などが入った
- 本機の内部に異物が入った
- 音が出ないなど(故障状態)
- 落としたり、キャビネットを破損した

⚠警告

■分解・改造しない

本機を分解、改造しないでください。火災、感電の原因となります。内部の点検、調節、修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

■本機の上に水などの入った容器を置かない

内部に水などが入った場合、火災、感電の原因となります。

禁 止

■ぬらさない

- 本機をぬらさないようにご注意ください。火災、感電の原因となります。
- 風呂場、水辺、雨天の中などでは使用しないでください。

水ぬれ禁止

■異物を入れない

通風孔、CDやカセットテープの挿入口などから、金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。(特に小さなお子さまにご注意ください。)火災、感電の原因となります。

禁 止

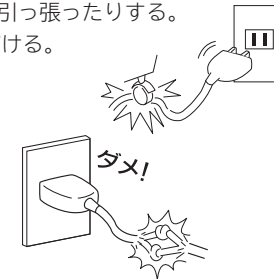
■付属の電源コードを本製品以外に使用しない

- 電源コードは付属のコード以外を使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 付属の電源コードを本製品以外に使用しないでください。火災・感電の原因となります。

■電源コードを傷つけない

無理な使いかたをするとコードが破損しますので、次のようなことはしないでください。

- 電源コードの上に重いものを乗せる。
- 途中でつぎ足したりして加工する。
- 無理に折り曲げる。
- 傷をつける。
- ねじったり、引っ張ったりする。
- 熱器具に近づける。

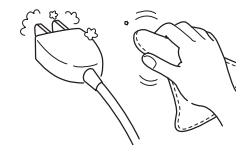
禁 止

電源コードが傷んだときは、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。

■電源コード接続時の注意

次のことをお守りください。誤った使いかたをすると発熱などにより、火災の原因となります。

- 電源プラグはコンセントへ確実に接続する。コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。
- 電源コードは束ねたまま使用しない。
- たこ足配線はしない。

■差し込み部分は定期的に点検を

定期的に電源プラグを抜いて、プラグとコンセントの間に付着したほこり、よごれなどを取り除いてください。ほこりにより、ショートや発熱が起こって火災の原因となります。

⚠警告

■壁にぴったりつけない

本機の設置は、壁から10cm以上の間隔をあけてください。また、他の機器との間は少し離してください。ラックなどに入れるときは、本機の天面および背面からそれぞれ10cm以上のすきまをあけてください。すきまがないと、内部に熱がこもり火災の原因となります。

■電源プラグをすぐに抜くことができるように本機を設置する。

電源プラグをコンセントから抜く

本機が異常や故障となったとき、電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと火災・感電の原因となることがあります。本機はファンクションスイッチが「電源　切」の状態でも微弱な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源プラグを抜いてください。

■通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機の後部や底部などに通風孔があり、次のような使いかたはしないでください。

- 本機をあお向けや横倒し、逆さまにする。
- 押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に置く。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置く。

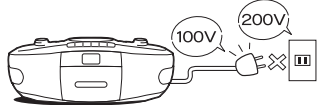
■雷が鳴り出したら

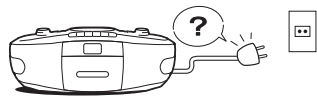
屋外で使用中の場合は、FMアンテナをたたんで安全な場所に避難してください。感電・落電の原因となります。

■レーザー光をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

■電源電圧100V以外で使用しない

表示された電源電圧（AC100V）以外の電圧で使用しないでください。火災、感電の原因となります。

■国外では使用しない

本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
This unit is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

■乾電池は充電しない

電池の破裂、液漏れにより火災・けがの原因となります。

■乾電池の使用・保管について

直射日光、高温、高湿、高熱の場所を避けて使用・保管してください。火災・けがの原因となります。

■種類の異なる（たとえばアルカリ乾電池とマンガン乾電池）や新旧の電池を一緒に混ぜて使わない

電池の破裂、液漏れにより火災・けがの原因となります。

■リチウム電池を使用しない。

リチウム電池は使用しないでください。漏液、発熱、破裂、発火等により、けがや機器故障の原因となります。

■風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など、湿度の高いところや水の跳ねる場所で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠注意

■電源プラグを抜くときの注意

- ぬれた手で電源プラグをさわらないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

■設置場所に注意

- 湿気、ほこりの多い場所や、油煙、湯気が当たる場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など温度が高くなる場所に放置しないでください。火災、故障の原因となることがあります。

■不安定な場所に置かない

不安定な場所、棚などに置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に重いものを置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■持ち運びの注意

- CDを取り出してください。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続機器を外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
- FMアンテナをたたんでください。伸ばしたまま持ち運びするとFMアンテナがひっかかったり、当たったりしてけがの原因となることがあります。

■CDやカセットテープの挿入口に手を入れない

けがの原因となることがあります。
（特に小さなお子さまにご注意ください。）

■変形やひび割れしたCDは使用しない

変形、ひび割れ、または接着剤などで補修したCDは、使用しないでください。CDは本機内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

また、セロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、剥がしたあとがあるCDも使用しないでください。

■ヘッドホンの音量に注意

音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■クレジットカードなどをスピーカーに近づけない

本機のスピーカーには強力な磁石を使用していますので、時計、クレジットカード、磁気定期券、カセットテープ、ビデオテープなどは、スピーカーのそばに置かないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

■音量は徐々に上げる

電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。（電源を切るときは、音量を小さくしてください。音量調節は、確認しながら行ってください。）

■幼児の手の届くところに置かない

けがの原因となることがあります。

⚠注意

■長期間使用しない場合やお手入れの際の注意

安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

■内部の掃除について

内部の掃除については、お買い上げの販売店にご相談ください。内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災、故障の原因となることがあります。

■磁波の発生する機器に近づけない

携帯電話、充電器や電磁波の発生する電気製品に近づけない。電磁波のためにノイズが発生することがあります。

■乾電池使用上の注意

乾電池の使いかたを誤ると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

次のことをお守りください。

- 単1形乾電池以外は使用しない。
- 極性（⊕と⊖）に注意し、表示通りに入れる。

- 種類の異なるものや、新旧の電池を混ぜて使わない。
- 電池を充電、加熱、分解したり、火や水の中に投入しない。ショートさせない。

- 長期間使用しないときは、電池を取り出しておく。
- 電池を廃棄する場合は、自治体の条例に従って廃棄してください。

もし、液もれが起こったときは、電池ケースについた液をよくふき取ってから新しい電池を入れてください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さめな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

使用上のお願い

■CDについてのご注意

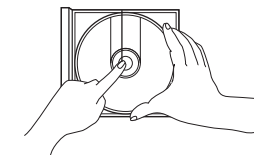
- CDにインクジェット用CDラベルを貼ったCD、紙やシールを貼ったCDは使用しないでください。
  また、セロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたあとがあるCDは使用しないでください。CDが取り出せなくなったり、故障の原因となります。
- ハート型や八角形など、特殊形状のCDは使用しないでください。故障の原因となることがあります。

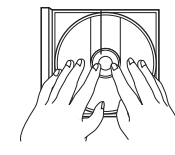
（特殊形状CDの例）

- 市販のCDスタビライザは使用できません。
- 以下のようなときに音とびを起こしますので、ご注意ください。
  - ◆ 本機に強い衝撃を与えたとき。
  - ◆ 薄い板の上など、振動しやすい場所に置いたとき。
- コピーガード付きCDの再生について
  CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクについては、当社としては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。CDを再生する際には、「CDロゴマーク」の有無や、パッケージの注意文をよくお読みになり、CD規格に準拠するCDであることをご確認ください。なお、CD規格に準拠しないCD再生時にのみ支障がある場合、詳細についてはCDの発売元にお問い合わせください。

CDの取扱いと保管

ケースからの出し入れは

センターホルダーを押さえ

再生面に触れないように持って出す。

印刷面を上にして…

上から押さえて入れる。

- CDに紙やシールを貼らない。
- CDは曲げない。

CDの保管について

- 必ず専用ケースに入れて保管ください。
- 直射日光の当たる所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所には置かないでください。

CDのお手入れ

再生する前に、再生面についたほこりやゴミ、指紋などを柔らかい布で中央から外側に向かってふいてください。

- シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーやスプレー静電防止剤は使用しないでください。

露つき（結露）のご注意

周囲の温度が急激に変化した場合、内部の光学レンズに露（水滴）が発生することがあります。この状態では正常にCDを再生できないことがあります。このような場合、CDを取り出し、使用される場所で約1時間放置した後、ご使用を開始してください。

使用上のお願い（つづき）

登録商標について

● 本書で登場するシステム名、製品名は一般に各開発メーカーの商標あるいは登録商標です。なお、本文中では™および®は明記していません。

大切な録音や再生は事前に確認を

大切な録音や再生の場合は、正常に録音や再生ができることを確認してください。

著作権について

あなたが録音したものは個人として楽しむ以外は、著作権上、権利者に無断で使用できません。放送やCD、レコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。

従ってそれらから録音したデータを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

使用条件は場合によって異なりますので、詳しい内容や申請、その他手続きについては、「日本音楽著作権協会」（JASRAC）におたずねください。

（JASRAC 本部：TEL.03-3481-2121）

再生中・再生後の音量にご注意ください

CDに記録されている音声のレベルはそれぞれ異なります。音声レベルが低いCDを再生したときは、音量を上げないと通常のように聞こえない場合がありますが、本機の故障ではありません。また、音量を上げてCDを再生した後に、音量を上げたまま別のCDを再生すると、大きな音が出ることがありますのでご注意ください。このようなことを防ぐため、CDを再生するときは、事前に音量を下げるよう心がけてください。

免責事項について

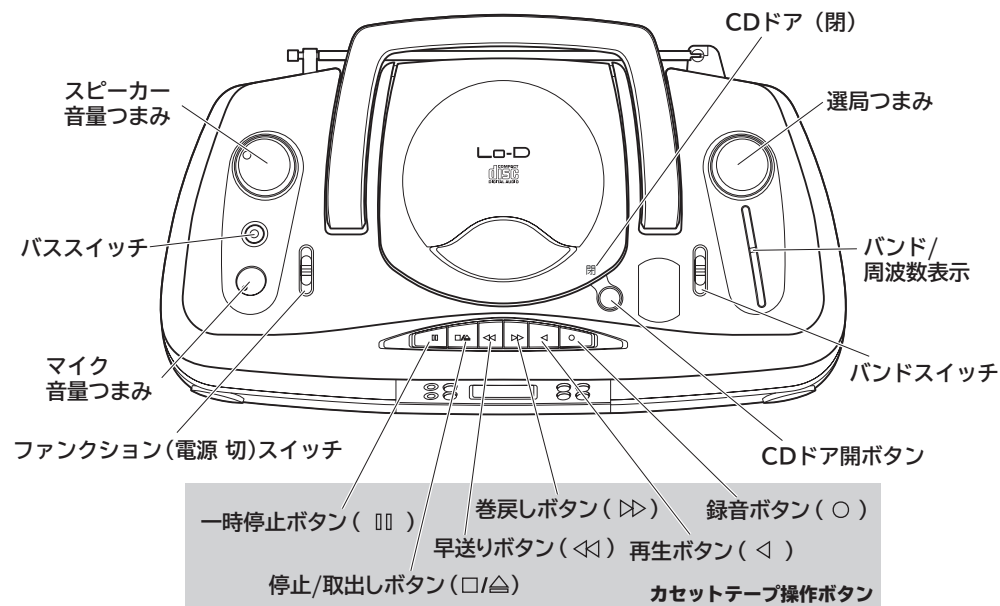
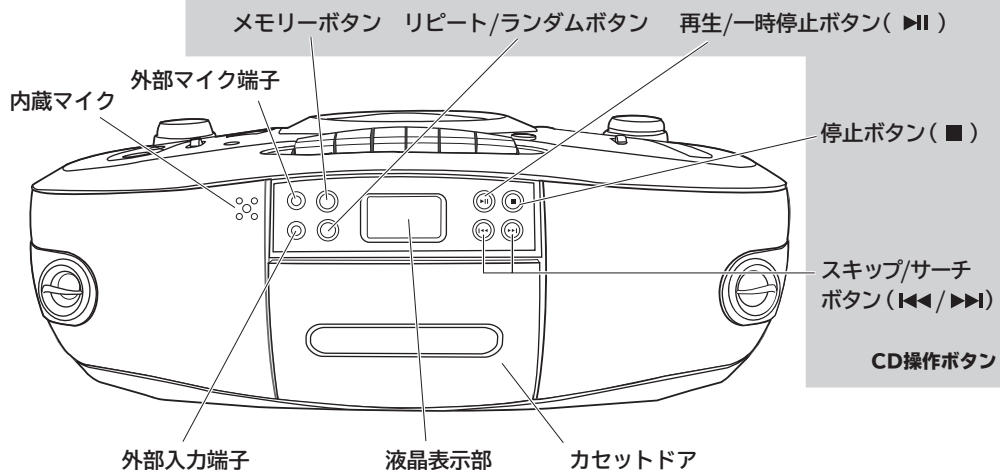
● 本機やその他の機器の不具合によって曲ファイルや記録されているデータが破損、または消去された場合のデータの補償に対して、当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

● 本機のご使用によって生じたその他の機器やデータの損害に対して、当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

● 本機のご使用、または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、中断を含む）に対して、当社では一切の責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

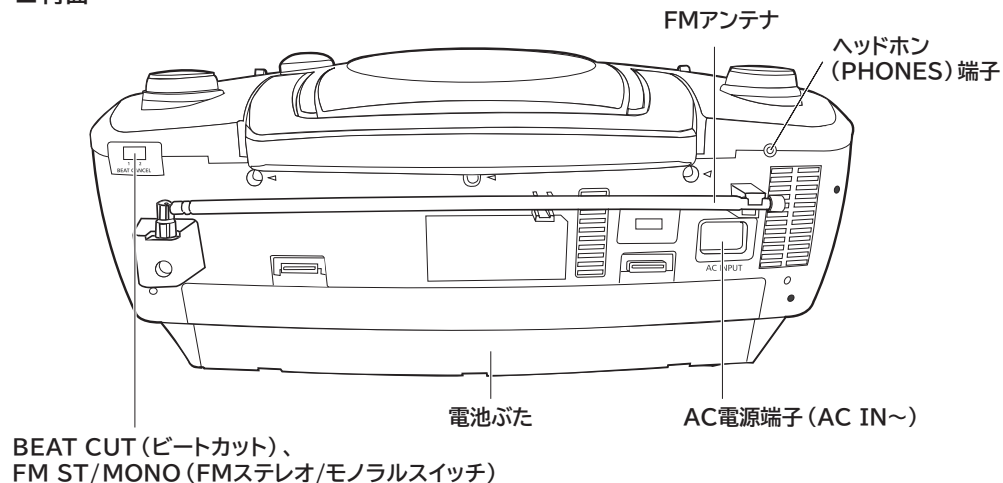
● 地震・雷・風水害や第三者による行為、お客様の故意または過失、誤使用、異常条件下での使用により生じた損害に関して当社は一切の責任を負いません。

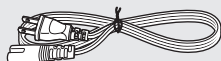
各部のなまえ

■上面

■前面

● 表示例として使用しております表示画面については、実際の画面と異なる場合があります。

● 本機のスピーカーは、フルレンジ（9cm）×2個です。

各部のなまえ（つづき）

■背面

付属品

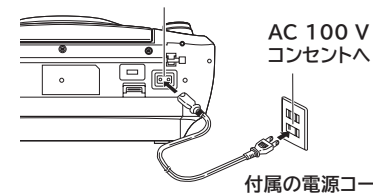
電源コード

（乾電池は付属していません）

電源と接続について

■電源

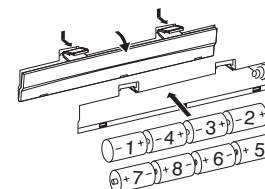
このCDラジオカセットレコーダーは、AC電源と乾電池の両方で動作します。

■AC電源

本体背面にあるAC電源端子（AC IN～）へ付属の電源コードを入れて、コードの反対側をAC100Vコンセントに差し込んでください。

注意

1. 付属の電源コード以外は、本体にダメージを与える恐れがありますので使用しないでください。また、電源コードを使うときは、乾電池を本体から取り出してください。
2. 本体を外に持ち出すときや長期間使わないときは、電源コードを必ず抜いてください。
3. 電源コードを抜き差しするときは、ファンクション（電源　切）スイッチを「テープ 電源 切」の位置に合わせてからおこなってください。
4. 文中の「電源を切る」とはファンクション（電源　切）スイッチを「テープ 電源 切」にすることです。
5. 本機の電源を完全に切るには、電源プラグを抜いてください。

■乾電池

- 電池ぶたを開け、別売の単一形乾電池8本を極性（⊕と⊖）を間違えないよう図に示す番号順に入れます。
- 電源コードがAC電源端子に接続されていると、乾電池では動作しません。

注意

1. 長期間使用しない場合やAC電源で使用する場合は、乾電池を取り出しておいてください。
2. 乾電池が消耗してくると次のような現象が生じます。
   - ・音が小さい、ひずむ。
   - ・テープ速度が遅くなる。
   - ・ラジオは聞けるがCDやカセットテープが正常に動作しない。
3. 大切な録音やCDを再生するときは、AC電源の使用をおすすめします。

■アンテナ

AMアンテナが本体に内蔵されているため、本体の位置を動かすことでAMの受信状態を調整できます。FM受信状態は、本体背面に付いているFMアンテナを伸ばしたり動かしたりして調整できます。

注意

1. 放送局の電波等の近くなど電波の強い影響を受ける地域では、音がひずんだり希望する放送局が受信できない場合があります。
2. 本機とテレビを近づけると、色ムラなど映像や音声に影響をあたえる恐れがありますその場合は、本機を離してご使用ください。
3. テレビの近くでAMを受信したり、蛍光灯の近くで使用したりすると、ラジオに雑音が入ることがあります。また室内アンテナや同軸ケーブルを使用していないフィーダーアンテナを使用しているテレビの近くで本機を動作させると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機を離して使用してください。

共通の操作

■ファンクション（電源 切）スイッチ

ファンクション（電源 切）スイッチを使いたい機能の記載された部分に動かします。

■スピーカー音量

スピーカー音量つまみをまわして、音量を調整します。

■マイク音量

マイク音量つまみをまわして音量を調整します。

■電源オフ

本体の電源を切るときには、カセットテープのボタンが押されていない状態で、「テープ 電源 切」にファンクション（電源 切）スイッチをあわせてください。

■バススイッチ

低音を強調したいときにボタンを押してください。
「▄切」にすると、もとの音質になります。

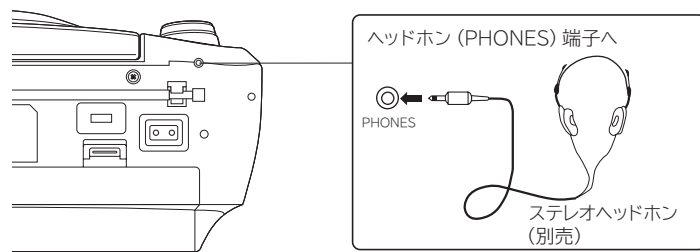
■外部マイク端子

ミニプラグ付のモノラルマイク（別売）を前面の外部マイク端子に接続します。

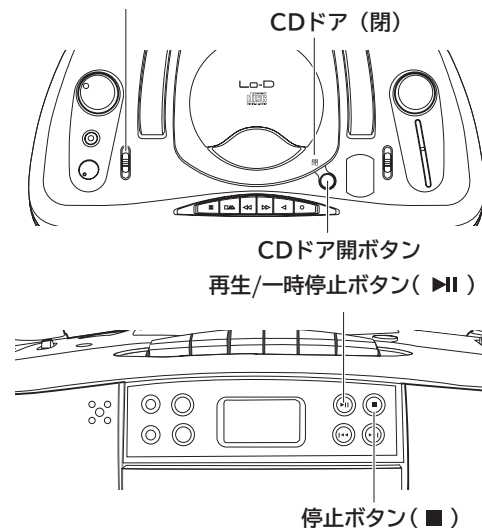
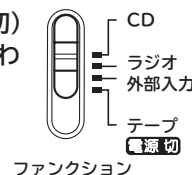
■外部入力端子

携帯電話やデジタルオーディオプレイヤーなどの外部機器からミニプラグ付のステレオ接続コード（別売）を使用して前面の外部入力端子に接続します。

■ヘッドホン

ミニプラグ付のステレオヘッドホン（別売）を背面のヘッドホン（PHONES）端子に接続します。

ヘッドホンをつなぐと、スピーカーから音は出なくなります。

注意 ファンクション（電源 切）スイッチを動かしたとき「ポッ」という音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。

音楽CDを聞く

1 ファンクション（電源 切）スイッチを「CD」に合わせる。

CDが入っていない場合

表示部に「No」と表示されます。

CDが入っている場合

CDに収められている曲数が表示されます。

2 CDを入れる

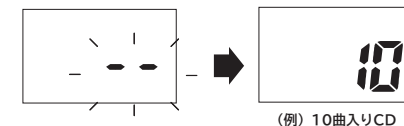
CDドア開ボタンを押して、CDドアを開けてください。

- CDのレーベル(印刷)面が上向きになるようにディスクテーブルに乗せます。
- 一度に2枚以上のCDを入れることはできません。

3 CDドアを閉める

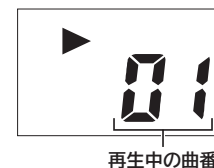
- CDドア「閉」部を押して、カチッと音がするまで確実に閉めてください。

表示部に「‒ ‒」と点滅表示された後、CDに収められている曲数が表示されます。

（例）10曲入りCD

※トラック数が多い場合は収められている曲数の表示に時間がかかる場合があります。

4 「再生/一時停止（ ▶II ）」ボタンを押す

曲番1から再生が始まります。

再生中の曲番

- 最後の曲まで再生が終わると、自動的に停止します。

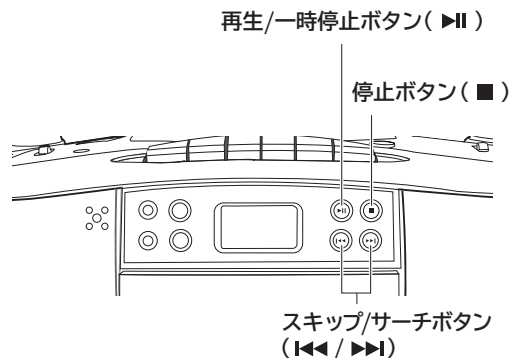
CDを停止する

CDを再生中に「停止（ ■ ）」ボタンを押す

CDを取り出す

「停止（ ■ ）」ボタンを押し、CDの回転が完全に停止してから、「開」ボタンを押す

注意 再生中は、絶対に「開」ボタンを押さないでください。CDを傷つけることがあります。

音楽CDを聞く（つづき）

再生の一時停止

再生中に「再生／一時停止（ ▶II ）」ボタンを押す

「 ▶ 」が点滅します。

- もう一度押すと、再び再生が始まります。

聞きたい曲から聞く

停止時に、「スキップ/サーチ（ I◀◀ / ▶▶I ）」ボタンを押して、希望の曲番号を表示し、「再生/一時停止（ ▶II ）」ボタンを押す

選んだ曲以降を順に再生します。

早送り、早戻し

再生中に、「スキップ/サーチ（ I◀◀ / ▶▶I ）」ボタンを押し続け、希望のところで指を離す

曲の頭出し

再生中に、曲の先頭から再生します。

再生中に次の曲の先頭に行く

「スキップ/サーチ（ ▶▶I ）」ボタンを1度押します。

再生中の曲の先頭に戻る

「スキップ/サーチ（ I◀◀ ）」ボタンを1度押します。曲の再生開始から約3秒以内に「スキップ/サーチ（ I◀◀ ）」ボタンを押すと1つ前の曲の先頭に戻ります。

1つ前の曲の先頭に戻る

再生中は「スキップ/サーチ（ I◀◀ ）」ボタンを2度押します。

再生をくり返す(リピート再生)

「リピート/ランダム」ボタンを押すたびに、表示部の点灯が「REPEAT（リピート）」→「REPEAT ALL（リピートオール）」→「RANDOM（ランダム）」→消灯と切り換わります。

REPEAT ➡ REPEAT ALL
(消灯) ⬅ RANDOM

1曲のみくり返し再生する

「リピート/ランダム」ボタンを押して、「REPEAT（リピート）」を点灯させます。

全曲をくり返し再生する

「リピート/ランダム」ボタンを押して、「REPEAT ALL(リピートオール)」を点灯させます。

プログラムした曲をくり返し再生する

再生する曲をプログラムしたあと（15ページ参照）、「リピート/ランダム」ボタンを押して、「REPEAT ALL(リピートオール)」を点灯させます。

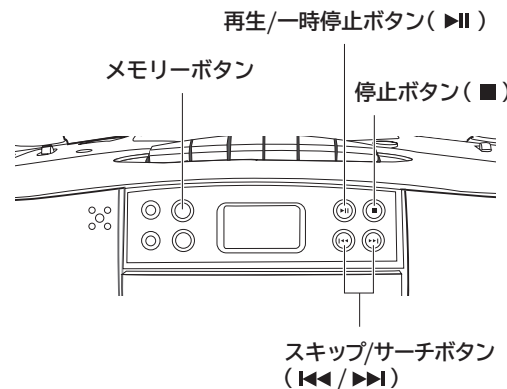
曲をランダムに再生する

「リピート/ランダム」ボタンを押して、「RANDOM(ランダム)」を点灯させます。

くり返し再生を解除する

「リピート/ランダム」ボタンを押して、表示を消灯します。

注意
1. CDを取り出すには、CDの回転が停止したのを確認してから、「開」ボタンを押してください。
2. くり返し再生設定中に、「停止（■）」ボタンを押すとくり返し再生の設定は解除されます。

プログラム再生

好みの曲を20曲まで選んで再生することができます。

プログラム例

再生順(ステップ)	曲　番
1番目	曲番6
2番目	曲番2

ちょっとこれを！

- CDが入っていないときは、CDを入れてCDドアを閉めてください。
- CDが再生中のときは、「停止（■）」ボタンを押して再生を停止してください。

1 「メモリー」ボタンを押す

表示部に「PROGRAM(プログラム)」が点滅し、「01」と約1秒間表示された後、「00」と表示されます。

- 前に設定したプログラムが記憶されているときは、（「PROGRAM（プログラム）」点灯中）プログラムの1番目の曲が表示されます。（16ページ参照）

2 「スキップ/サーチ（ I◀◀ / ▶▶I ）」ボタンをくり返し押して、曲番6を選ぶ

3 「メモリー」ボタンを押す

表示部に「02」と約1秒間表示された後、「00」と表示されます。

4 「スキップ/サーチ（ I◀◀ / ▶▶I ）」ボタンをくり返し押して、曲番2を選ぶ

5 「メモリー」ボタンを押す

- 20番目をプログラムし終えると、曲番の表示が「 ‒ ‒ 」に変わり、プログラムを追加できなくなります。

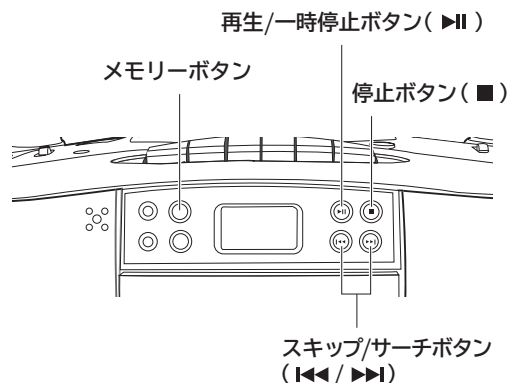
6 「再生/一時停止（ ▶II ）」ボタンを押す

プログラム再生が始まります。

プログラム再生（つづき）

再生/一時停止ボタン（ ▶II ）

メモリーボタン

停止ボタン（ ■ ）

スキップ/サーチボタン
（ I◀◀ / ▶▶I ）

記憶しているプログラム内容を消去する

停止時に「メモリー」ボタンを押して、「停止（ ■ ）」ボタンを押す

注意　CDドアを開けてもプログラムは消去されます。

プログラム内容を表示（確認）する

停止時に「メモリー」ボタンを押す

押すたびにプログラム順に内容が表示されます。

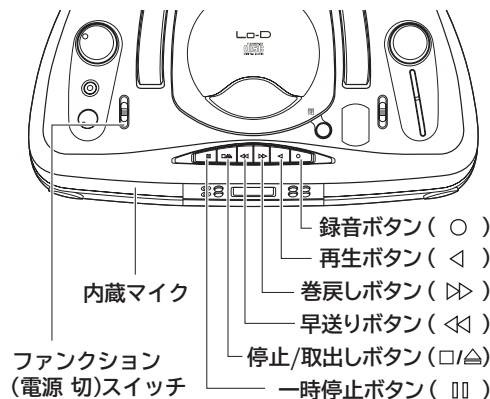
プログラムの最後に曲を追加する

1 停止時に「メモリー」ボタンをくり返し押して、最後の曲の次のプログラムを表示する

2「スキップ/サーチ（ I◀◀ / ▶▶I ）」ボタンをくり返し押して、希望の曲を表示する

3「メモリー」ボタンを押す

● 20番目をプログラムし終えると、曲番の表示が「‐ ‐」に変わりプログラムを追加できなくなります。

カセットテープを聞く

録音（ ○ ）
CD、ラジオ、外部音声機器および内蔵マイクから録音するときに押します。

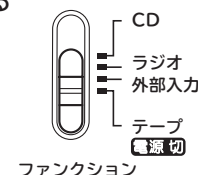
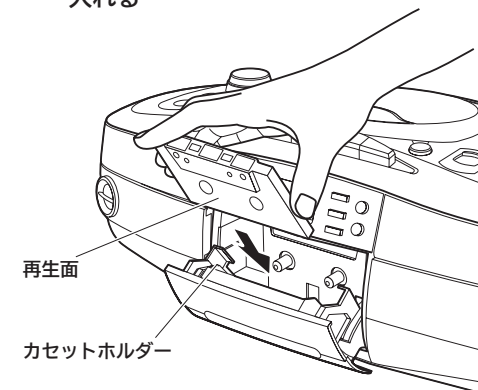
再生（ ◁ ）
テープを再生するときに押します。

巻戻し（ ▷▷ ）
テープが停止状態のときに、巻戻しボタンを押します。

早送り（ ◁◁ ）
テープが停止状態のときに、早送りボタンを押します。

停止/取出し（□/≜）
テープの動きを止めるとき、もしくはテープが停止状態でカセットドアを開けるときに押します。

一時停止（ ▯▯ ）
テープの再生もしくは、録音を一時停止させるために押します。もう一度押すと、再生もしくは録音の状態に戻ります。

1 **ファンクション（電源 切）スイッチを「テープ 電源 切」に合わせる**

2 **「停止/取出し（ □/≜ ）」ボタンを押して、カセットドアを開け、カセットテープを入れる**

3 **カセットドアを閉める**
カチッと音がするまで確実に閉めてください。

4 **「再生（ ◁ ）」ボタンを押す**
再生が始まります。
※液晶表示部は点灯しません。

ちょっとこれを！

再生・録音中にテープが全部巻き取られると、自動的にボタンが復帰して停止します。

カセットテープの再生を停止する

「停止/取出し（□/≜）」ボタンを押す

● カセットテープを取り出すときは、「停止/取出し（□/≜）」ボタンをもう一度押します。

一時停止

再生または録音中に「一時停止（ ▯▯ ）」ボタンを押す

● もう一度押すと再度、再生または録音が始まります。

早送り、巻戻し

停止時に「早送り(◁◁)」または「巻戻し(▷▷)」ボタンを押す

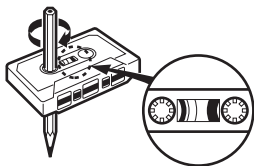
● 希望のところにきたら、「停止/取出し(□/⏏)」ボタンを押します。

注意
1. 再生中に「早送り(◁◁)」または「巻き戻し(▷▷)」ボタンを押さないでください。テープがからみ故障の原因となります。
2. 早送り、巻戻し中にテープが全部巻き取られても自動的にボタンは復帰しません。
かならず、「停止/取出し(□/⏏)」ボタンを押してください。
3. 早送り、巻戻しによる頭出し(キュー/レビュー)機能はありません。

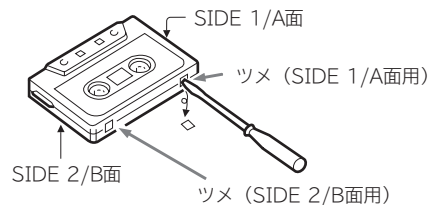
カセットテープについて

ノーマルテープ(TYPE 1)をご使用ください。
ハイポジションテープ(TYPE 2)や
メタルテープ(TYPE 4)は使用できません。

● エンドレステープは使用できません。
● 90分を超える長時間テープは大変薄く、伸びやすいため、機械に巻き込むおそれがありますので、使用しないでください。
● カセットテープの両端のリーダーテープ部分(半透明の部分)は録音できません。録音の前にはこの部分を送ってから使用してください。

テープがたるんでいるときは、鉛筆などでたるみをとってから使ってください。

次のような場所には保管しないでください。
ほこりの多いところ。
磁気の発生するところ。
高温や湿度の多いところ。

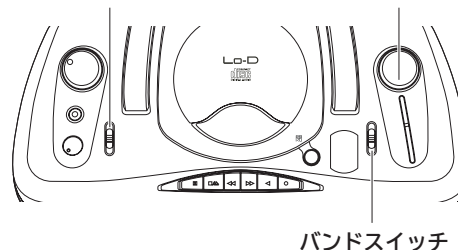
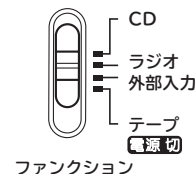
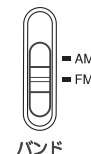
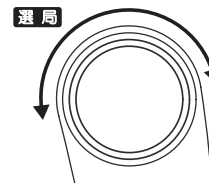
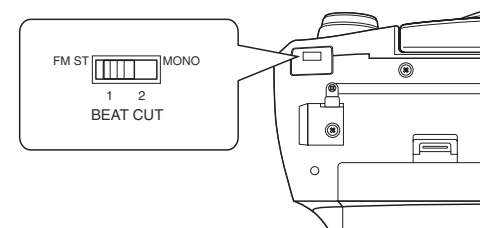
大切な録音を消さないために

カセットテープの後ろ側にあるツメをドライバーなどで折れば誤消去の防止になります。

誤ってツメを折ったり、再び録音したいときは、セロハンテープなどで穴をふさいでください。

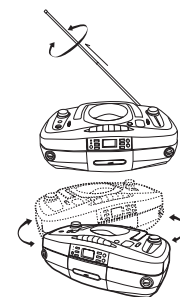
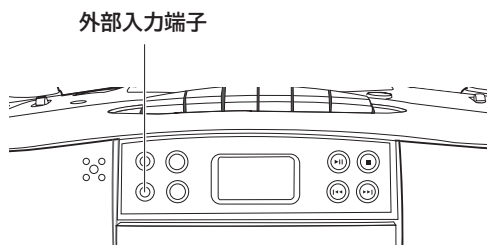
長時間保管されたカセットテープについて

保管状態により温度や湿度の影響でテープ表面がダメージを受けています。次のような場合はカセットテープ走行に影響をおよぼし故障の原因となるため、ご使用にならないでください。

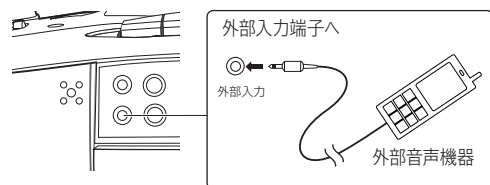
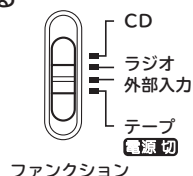
● 変色している
● カビなどが付着している
● テープが大きく波打っている

ラジオを聞く

1 **ファンクション(電源 切)スイッチを「ラジオ」に合わせる**

2 **バンドスイッチを「AM」または「FM」に合わせる**

3 **周波数表示を目安に選局つまみを回して聞きたいラジオ局にあわせる。**

FMステレオ放送の受信について

背面の「BEAT CUT、FM ST/MONO」スイッチでステレオ「FM ST」とモノラル「MONO」モードを切り換えることができます。ステレオ「FM ST」側のときにステレオ放送を受信すると、自動的にステレオになります。

● 受信状態が悪いときは、モノラル「MONO」モードにすると、ステレオになりませんが、聞きやすくなります。
● AMステレオ放送には対応していません。

よりよい受信をするために
FM放送
FMアンテナを伸ばし、最も良く聞こえる方向に向けてください。
AM放送
本体の向きを変えてください。

外部音声機器を聞く

外部入力端子

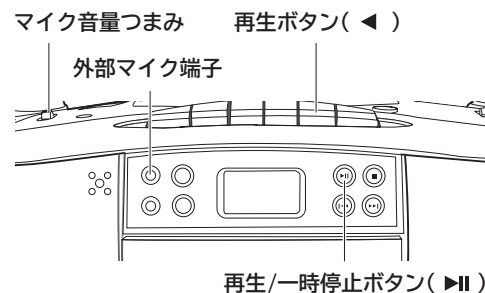
準備

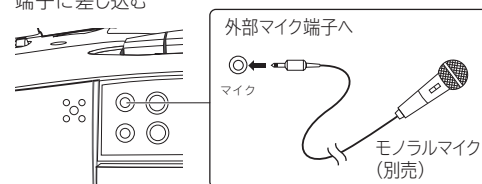
外部音声機器の音声出力端子（ヘッドフォン端子、ライン出力端子）と本機の外部入力端子をミニプラグ付の接続コード（別売）で接続する

1 ファンクション（電源 切）スイッチを「外部入力」に合わせる

2 外部入力端子に接続した音声機器の音声を再生する

本機のスピーカーから音声が流れます。

注意
1. 携帯電話やデジタルオーディオプレーヤーと接続するコードは、3.5φステレオミニプラグ付接続コード（別売）を使用してください。
2. 音がひずまないよう、外部音声機器側で音量を調節してください。

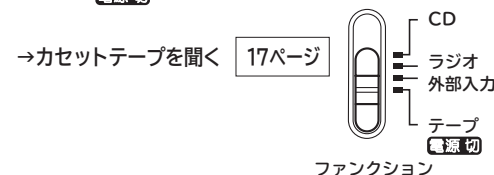
外部マイク（別売）を使う

マイク音量つまみ　再生ボタン（ ◀ ）
外部マイク端子
再生/一時停止ボタン（ ▶II ）

準備

ミニプラグ付のモノラルマイク（別売）を前面の外部マイク端子に差し込む

- ご使用になるマイクをお確かめください。電源供給が不要なダイナミックマイクは使えますが、電源供給を必要とするコンデンサーマイクは使用できません。
- マイクにON/OFFスイッチがある場合はスイッチをONにします。
- マイクの音量はマイク音量つまみを回して調節してください。

カセットテープと外部マイクを同時に使うには

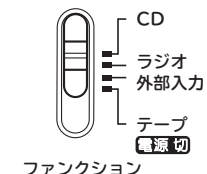
1 ファンクション（電源 切）スイッチを「テープ 電源 切」にしてカセットテープを入れる

→カセットテープを聞く 17ページ

2 再生「 ◀ 」ボタンを押す

テープの再生が始まり、外部マイクからの音声がテープ音声とともにスピーカーから流れます。

CDと外部マイクを同時に使うには

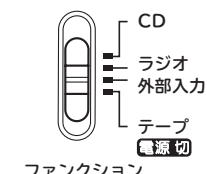
1 ファンクション（電源 切）スイッチを「 CD 」にしてCDを入れる

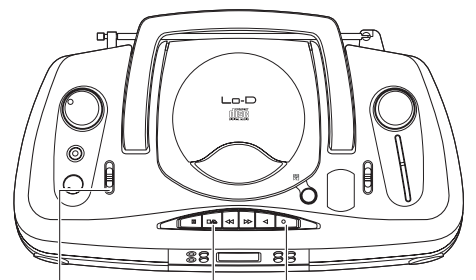
→CDを聞く 13ページ

2 再生「 ▶II 」ボタンを押す

CDの再生が始まり、外部マイクからの音声がCD音声とともにスピーカーから流れます。

- ファンクションが「テープ 電源 切」の場合には、停止中は外部マイクは使えません。
- ファンクションを「ラジオ」／「外部入力」に切り替えた場合も外部マイク機能を使用することができます。
- 外部マイクをご使用にならない場合は、マイク音量つまみを最小位置にしてください。

拡声器として使うには

1 本機に外部音声機器が接続されていない状態でファンクション（電源 切）スイッチを「外部入力」に合わせる

外部マイクからの音声がスピーカーから流れます。

注意
1. 外部マイク端子に接続するマイクは、3.5φモノラルミニプラグ付マイク（別売）を使用してください。
2. 外部マイクの音声をカセットテープに録音することはできません。
3. 市販の音声多重テープやCDを再生した場合は、左右のスピーカーから別々にカラオケと歌が聞こえます。（カラオケまたは歌のみ聞くことはできません。）

録音する

1 「停止/取出し(□/⏏)」ボタンを押して、カセットドアを開け、カセットテープを入れる

● 録音する面を手前にして入れます。

● 録音するときは、頭切れをなくすため、あらかじめリーダーテープ部を巻き取っておいてください。

2 カセットドアを閉める

● 録音を始めるテープ位置で停止させておきます。

3 録音するファンクション(音源)を選ぶ

CDから録音するとき(CDシンクロ録音):

希望の曲から録音するときは、曲番を選んでおきます。

● 希望の曲だけを選んで録音するときは、プログラムをしておきます。(15ページ参照)

ラジオを録音するとき:

録音する放送局を受信する。(19ページ参照)

外部機器の音声を録音するとき:

ファンクション(電源 切)スイッチを「外部入力」に合わせる。

内蔵マイクから録音するとき:

ファンクション(電源 切)スイッチを「テープ 電源 切」に合わせる。

注意 外部マイクの音声をカセットテープに録音することはできません。

4 「録音(○)」ボタンを押す

「再生(◁)」ボタンも同時にさがり、録音が始まります。

● CDから録音する(CDシンクロ録音)ときは、録音とCDの再生が同時に始まります。

● CDの一時停止中に「録音(○)」ボタンを押すと、曲の途中から録音を始めることができます。

● テープが終端にくると、自動的にテープの録音を停止します。

ちょっとこれを!

● CDシンクロ録音とは、「録音(○)」ボタンを押したときに自動でCDの録音を始める機能です。

● 「録音(○)」ボタンを押すと同時に「再生(◁)」ボタンがさがるため重く感じることがありますが、故障ではありません。

● 本機には自動録音レベル調整回路が内蔵されていますので、自動的に適正なレベルで録音されます。音量つまみを調整したり、バススイッチで設定を切り換えても録音には影響しません。

● CD、ラジオ、外部音声機器を聞いている音量とカセットテープに録音/再生した時の音量は違いますのでスピーカー音量つまみで調節してください。

テープの録音を停止する

「停止/取出し(□/⏏)」ボタンを押す

注意

● CDシンクロ録音のときは、カセットの「停止/取出し(□/⏏)」ボタンを押すと、CDの再生は一時停止状態になりますので、かならず「停止(■)」ボタンを押して、停止させてください。

録音中にビート音がでるときは

ラジオを録音中、ビート音(「ピー」という音)がでることがあります。その場合には、背面の「BEAT CUT」スイッチをビート音が小さくなる位置(1または2)に切り換えてください。

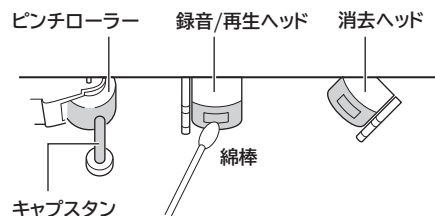
あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

お手入れ

テープヘッド部の清掃

カセットテープを再生または録音すると・・・

● 音が悪い
● きれいに録音できない
● 前の音が残っている
● テープが巻きつく

などの症状がでた場合、その多くはヘッドやピンチローラーおよびキャプスタンの汚れが原因となっていますので、市販のクリーニングキット(またはクリーニングテープ)をお買い求めのうえ、ヘッド部分を清掃してください。なお、約10時間程度使用ごとのお手入れを推奨します。

「停止/取出し(□/⏏)」ボタンを押してカセットホルダーを開け、図に示す▭部分をふいてください。

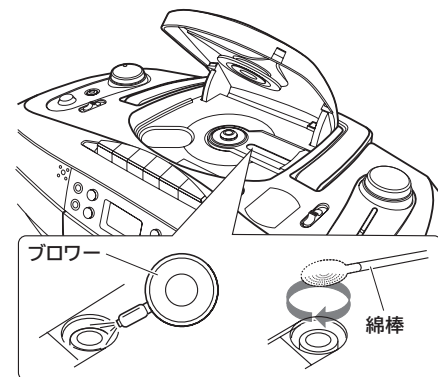
● 長い間使っていると、ヘッドが磁化されて雑音が入ったり、音質が悪くなったりします。このようなときは、市販の消磁器でヘッドを消磁してください。

本体のお手入れ

柔らかい布で汚れを軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。

● ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。また、キャビネットに殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。

ピックアップ(レンズ)の清掃

CD装着部のレンズが汚れますと、音とびが起きたり、再生ができなくなったりします。ほこりなどは、市販のブロワーでレンズを2、3回吹き、先のブラシでほこりをはき出します。指紋などレンズについた汚れは、市販のレンズクリーナーを綿棒につけてレンズの中心から外に向かってふいてください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度次の項目をお確かめください。

故　障?	原　因	処　置
音がでない	● 電源コードがはずれている ● 乾電池が消耗している ● 音量が小さく設定されている ● ヘッドホンが差し込まれている ● お聞きになろうとするファンクションが正しく選ばれていない	● 電源コードを確実に差し込む ● 乾電池を交換する ● 音量を調節する ● ヘッドホンをはずす ● 目的のファンクションを正しく選ぶ
CD部		
演奏がはじまらない	● CDが裏返しになっている ● CDが汚れている ● CD以外のディスクが入っている（液晶表示部に「Er」表示） ● CDに露がついている ● CDを2枚重ねにしている	● レーベル面を上にして入れる ● 清掃する ● CDに取り替える ● ふき取ってください ● 1枚だけセットする
音がとぶ	● CDに傷や汚れ、ソリがある ● 振動する場所に設置している ● レンズが汚れている	● CDを取り替える ● 振動のない場所に設置する ● 清掃する
カセット部		
カセットテープが入らない カセットドアが閉まらない	● カセットテープの向きが上下逆さまになっている	● テープの見えている方を上側にして入れる
テープが走行しない	● カセットテープの不良	● カセットテープをとりかえる
録音ボタンが押せない	● ツメの折れたカセットテープを装着している	● カセットテープをとりかえる ● 穴をセロハンテープなどでふさぐ
音がとぎれる、音程が狂う 消去が不完全	● ヘッド部が汚れている ● ハイポジションやメタルテープを使っている	● 清掃する ● ノーマルテープを使用する
ラジオ部		
雑音が多く聞きづらい	● 電波の受信状態が悪い ● 電源雑音の影響を受けている ● モーター、蛍光灯などの電気器具、テレビによる雑音の影響を受けている ● 選局がずれている	● 本機の設置場所を変える ● 電源コードを差し替える ● 本機を雑音源から離す ● テレビを消す ● アンテナを調節する ● 正しく選局する

注意　**CDの動作中に、表示や動作が異常になった場合は、ファンクション（電源　切）スイッチを一度「テープ 電源 切」にして電源を切ったあと、再度「CD」にして操作しなおしてください。長時間使用していますと、キャビネットの一部が多少熱くなることがありますが故障ではありません。**

仕　様　CK-55

CDプレーヤー部	
再生フォーマット	音楽CD(CD-DA)
ラジオ部	
受信周波数	FM：76～90MHz AM：530～1600kHz
テープレコーダー部	
録音方式	交流バイアス
消音方式	マグネット消去
巻き戻し時間	約160秒(60分テープ片面)

マイク部	
内蔵マイク	無指向性マイク
共通部	
スピーカー	9cm×2（8Ω）
出力	2W+2W（JEITA/DC）
出力端子	ヘッドホン（PHONES）端子 ステレオミニジャック3.5φ
入力端子	外部入力端子 ステレオミニジャック3.5φ 外部マイク端子 モノラルミニジャック3.5φ
電源	AC100V、50/60Hz DC12V（単一乾電池8本）
消費電力	約11W
外形寸法	（約）幅408×高さ151×奥行231mm
質量	約2.5kg（乾電池含まず）
電池持続時間 日立アルカリ(LR20) 単一乾電池8本使用	CD再生時（JEITA）約12時間 テープ再生時（JEITA）約28時間 FM録音時（JEITA）約25時間
付属品	電源コード、取扱説明書（保証書付）

注意　**電池持続時間は、電池の種類、メーカー、保管状態、使用条件、使用環境温度などによって変わります。上記時間はあくまで目安であり、保証するものではありません。**

ご相談窓口

家電品についてのご相談や修理はお買上げの販売店へ
なお、転居されたり、贈物でいただいたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

修理などアフターサービスに関するご相談は エコーセンターへ	商品情報やお取り扱いについてのご相談は お客様相談センターへ
TEL 0120−3121−68 FAX 0120−3121−87	TEL 0120−8802−28 FAX 03−3260−9739
(受付時間) 9：00〜19：00 (月〜土)、9：00〜17：30 (日・祝日) 携帯電話、PHSからもご利用できます。	(受付時間) 9：00〜17：30 (月〜金) 携帯電話、PHSからもご利用できます。 土曜・日曜・祝日と年末年始・夏期休暇など弊社の休日は、休ませていただきます。

● 「持込修理」および「部品購入」については、上記エコーセンターにて各地区のサービスセンターをご紹介させていただきます。
● ご相談、ご依頼いただいた内容によっては弊社のグループ会社や協力会社に個人情報を提供し対応させていただくことがあります。
● 修理をご依頼いただいたお客様へ、アフターサービスに関するアンケートハガキを送付させていただくことがあります。
● 保証期間中の修理依頼時は、保証書をご提示ください。
● 上記窓口の内容は、予告なく変更させていただく場合がございます。

愛情点検

●長年ご使用のCDラジオカセットレコーダーの点検を！

●CDラジオカセットレコーダーの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年間です。

ご使用の際このような症状はありませんか。	● 電源を入れても音が出ない ● ジージー・パチパチと異常な音がする。 ● 変なにおいがしたり、煙が出たりする。 ● 電源を切っても、音が消えない。 ● 内部に水や異物が入った。

お願い	このような症状のときは、故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。また商品の色調は、印刷のため異なる場合もあります。あらかじめご了承ください。

保証とアフターサービス

アフターサービス等について、おわかりにならないときは、お買い上げの販売店またはご相談窓口(☞ 26 ページ)にお問い合わせください。

項目		内容
❶ 保証書 (裏表紙についています)		保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保存してください。 **保証期間はお買い上げの日から１年です。**
❷ 修理を依頼されるときは 持込修理	保証期間中は	修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。なお、修理内容によっては商品交換にて対応させていただきます。
	保証期間が過ぎているときは	修理によって使用できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。なお、修理内容によっては、有料にて商品交換で対応させていただきます。
❸ 補修用性能部品の保有期間		CDラジオカセットレコーダーの補修用性能部品を製造打ち切り後6年間保有しています。 ●補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。
❹ ご転居されるときは		ご転居によりお買い上げの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。
❺ 修理料金のしくみ		修理料金＝技術料＋部品代などで構成されています。 技術料：診断、部品交換、調整、修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれています。 部品代：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。